

令和4年度第1回羽島市総合教育会議（会議要旨）

日 時	令和4年11月16日(水) 午後1時23分～午後2時40分
場 所	羽島市役所第1委員会室
出 席 者	森嘉長教育長、黒田淳教育委員、今枝甫教育委員 春日民奈教育委員、今井田裕子教育委員 松井聡市長 （事務局職員） 伊藤市民協働部長、岩田生涯学習課長、大橋同課主幹 木山同課係長 （関係課職員） 今井田教育委員会事務局長、小川教育委員会事務局次長兼教育政策課長、岡田同課係長、南部学校教育課長、入野同課係長 箕浦スポーツ推進課長、中尾同課係長
内 容	1 開会 ・会議公開及び傍聴の有無の報告 ・資料確認 2 あいさつ （市長） 委員の皆様方には、大変ご多忙中にもかかわらず、ご臨席を賜り、厚くお礼を申し上げます。 本日の協議事項は、「中学校における運動部活動の地域移行」の1点です。羽島市では、運動部活動に地域スポーツクラブの指導者の方々の参画を得て行っており、全国でも好事例として取り上げられています。 また、文部科学省においては、スポーツ以外の文化芸術活動についても、今後、同様の試みを展開していくこととされています。 本日は、資料に基づき、委員の皆様方にご意見を賜りたいと存じますので、よろしく願いいたします。 3 協議 [説明] スポーツ推進課から「中学校における運動部活動の地域移行」について説明 [意見交換] （市長） 本日、スポーツ関係における連携ということで、ご意見を賜りた

と思いますが、現在、文化部における地域との連携は、いわゆる進展はないということですのでよろしいですね。

これを踏まえ、運動部活動加入数の 299 人のうち 85%がはしまなごみスポーツクラブに加入しているということです。

まず、アンケート調査結果について、生徒、運動部顧問の満足度は非常に高い印象がありますが、保護者、クラブ指導者についての満足度がいくぶん低い状況です。

保護者の方の満足度が 62%に留まっていることについて、具体的にどのような内容であるか把握していますか。

(スポーツ推進課)

運動部活動の地域移行の目的として、保護者の負担軽減を図ることを目的の 1 つとしていましたが、一部保護者負担が継続される形での実施体系となっていることから、満足度が 62%に留まっているものと考えています。

(市長)

保護者の方の負担軽減につながらない要因として、具体的には、送迎関係、人員不足による開始前のグラウンド整備や後片付けのどちらなのでしょう。

(スポーツ推進課)

アンケート結果内容からは、保護者の見守り当番が継続していること、指導者だけではなく保護者の付き添いのもと活動を実施している点が挙げられています。

(市長)

保護者の方の思いと若干違う実施体系であるとのことでしたが、満足度について、ご質問やご意見がございましたら承りたいと存じます。

(教育委員会)

市長からは、満足度が低い点について、ご指摘をいただきましたが、逆に、クラブ指導者の 7 割の方は満足しているということで、どのような点に満足し、3 割の方はどの点に満足していないかを補足していただきたいです。

(スポーツ推進課)

満足と回答いただいた指導者からは、子どもの成長を身近で見ることができる、見届けることができることに、とても幸せを感じているという意見が多かったです。

半面、不満足の内容としては、トレーニング施設、ミーティング施設や屋内練習場の整備により、さらに良い充実した活動になるなど、ハード面におけるご意見をいただきました。

(教育委員会)

羽島市が先行事例として取り上げられている理由として、地域移行が制度上手続きをなされたということもあると思いますが、子どもの満足度が高いことも要因であると思います。

指導者の方々の熱意や指導力、あるいは教育的配慮により、子どもからの高い評価につながっていると思います。

生徒からの満足している声というのはどのようなものがありますか。

(スポーツ推進課)

1点目は、専門的な指導者による指導を受けることができること。

2点目は、人格を尊重した指導をしてもらえることが嬉しいという声があります。

2点目の関係は、指導者研修会において、子どもたちの人格を尊重した指導をお願いしているものです。

(市長)

つづいて、成果と課題についてご意見をいただきたいと思います。

(教育委員会)

少子化を見据え、取り組みたいスポーツがあり他の学校から、はしまなごみスポーツクラブで活動するといったように、種目に応じて各地域スポーツクラブを拠点化していくことになると思います。

保護者の満足度が低い要因として、送迎が主なものと思っていました。

また、保護者による見守りを行っているとのことですが、現実的には保護者の協力もいただきながら活動している状況なのかと思います。

怪我などした際には、付き添いや搬送も担っていると思いますがどうでしょうか。

(スポーツ推進課)

見守り当番については、積極的に担っていただける方で行うものや、緊急時等に対応できるようにすればよく活動中の見守りを必須としていないといったように、各地域スポーツクラブで実態に合わせて行っています。

子どもたちの充実した、そして、安全・安心な活動のためにも、現段階では必要であると考えています。

(教育委員会)

過重労働の削減の話がありましたが、子どもと一緒にスポーツをしたいという教員もいるかもしれません。

このような場合、その教員は地域スポーツクラブの指導者として活動することは可能でしょうか。

(スポーツ推進課)

昨年度は5名、今年度は7名の教員が兼職兼業で、自分の得意を生かして指導にあたっています。

(教育委員会)

指導者の健康診断の実施についても必要になると思いますが、どうでしょうか。

(スポーツ推進課)

他の地域スポーツクラブとも十分に検討していきたいと思えます。

(教育委員会)

成果の1つとして挙げられている「仲間づくり・絆づくりにつながっており、学校での部活動と同様の教育的効果が得られた」ことについて、どのような判断によるものなのかをお聞きしたいと思います。

(スポーツ推進課)

子どもを対象としたアンケートの仲間づくりに係る項目において、クラブ活動の中で関係性が良くなったり、大切な仲間づくりができつつあるといった内容が見られました。また、指導者からは、練習を重ねていく中で、お互いに声をかける内容などから、絆が深まっているといった内容が見られました。

(教育委員会)

技能の向上やお互いに励まし合うことなど、良い面は伸ばしていただきたいと思います。

活動の中で、勝利至上主義の考えの方とスポーツを楽しむという考えの方、あるいは、自分が先発選手になるか控え選手になるかなど、保護者の期待や子ども自身の充実感であったり、思春期で難しい時期でもあるので、こういう中において、いじめや感情のあつれきが起こっていると思います。学校の教員は、そのような場をたくさん目にしながらも気づけないこともあり、はしまなごみスポーツクラブの指導員の方々が、休日にだけ会う子どもたちに、何が起きているかということに、気づいていくことができるのかなと感じています。

子どもたちの内面を、学校の教員と地域スポーツクラブの指導者がどのように連携しているか、今まで事故や事件を聞いてないので、指導者の方々が充実した指導を行っていただいていると思うのですが、不安な面もあります。

学校の教員と地域スポーツクラブの指導者の間で、子どもに対する様々な意見交換等が、どのように行われているか教えてください。

(スポーツ推進課)

地域スポーツクラブの指導者と部活動顧問の連携を強固なものにするために、部活動クラブ活動引継書を作成し、週に1回必ずクラブ指導者と顧問の間で共有しています。

練習の内容だけではなく、今ご指摘いただきました子どもたちの様子を引継書に書くことができない個人情報、適宜お互い連絡、情報共有をして、いじめ等が起こらないように努めています。

(教育委員会)

そのような体制を整備していただき、具体的に踏み込んだ形での指導をした事例はありましたか。

(スポーツ推進課)

今のところ、そのような事例の報告は受けておりません。

(教育委員会)

運動部活動の地域移行に際して、特に教育関係者から、いじめが増えるのではないかといった危惧がありました。それは、スポーツ

の専門家であるものの教育のプロではないという理由からでした。

しかし、一方で、アンケート結果からは、仲間づくりや絆づくりが深まったという声が多いことが伺えます。

これは、子どもたちが主体性を持って休日のスポーツクラブに参加していることと関係しているのではないかと思います。

やはり、部活動は本来、子どもたちの自主的な活動であるので、その観点をもっと大事にして、指導いただけると、さらに満足度が上がっていくのではないかと思います。

また、大人も部活動に対する認識を変えていくことが必要なのではないかと感じました。

(教育委員会)

先ほど「自閉症スペクトラム等の専門的知識に係る研修の実施」について説明がありましたが、これらの研修を良い機会と捉える指導者もいる一方で、不安に思ったり負担に感じる指導者もいるのかどうかということと、このような研修に積極的に参加されるのかが気になります。

また、保護者の送迎や当番について、子どもと一緒に勝つことの喜びを感じたり、今までできなかったことができるようになった喜びを感じることができると思っており、これは親の成長や親の喜びでもあると思うので良いことだと捉えています。

一方、家庭環境や親の職業により送迎や当番ができず、希望していた運動部活動への入部を諦め、文化部に入部した例もあり、周りがフォローしながら柔軟に対応できると良いと思います。

(スポーツ推進課)

自閉症スペクトラム等の研修会については、指導者の方々から個性ある子どもたちの対応等を学びたいという意見を踏まえ実施しました。

この研修会には50名を超える指導者の方々に参加をいただき、地域スポーツクラブが個性ある子どもの受け皿にもなっていないといけないという意見もありました。

(教育委員会)

現場の指導者は、事故等の対応のために2人は配置すべきだと思うのが1点、そして、部活動と地域スポーツクラブにおける目的や目標はおのずと異なるのではないかということを考えています。

スポーツクラブへの加入は、強制、任意のどちらでしょうか。ま

た、少子化の進行により、スポーツクラブ加入率が減少した場合の対応をどうするのかという点について教えていただきたいと思います。

部活動が学校教育の一環として行われていることを地域スポーツクラブの指導者は認識する必要があると思います。そこで、指導に関する資格について教えてください。

休日の試合開催や選手決めなど、地域スポーツクラブの指導者、部活動顧問、そして、保護者の連携が大変大事だと思います。

また、会費、指導者への謝礼などの予算措置について教えてください。

(スポーツ推進課)

1 点目の指導者数については、現状 2 名以上を配置しています。今後も地域スポーツクラブの要望に応えることができるように指導者の確保に努めていきます。

2 点目の部活動と地域スポーツクラブの目標や目的の共有については、引継書を活用して共有を図っています。

3 点目のスポーツクラブの加入については、選択制としており、今後も継続していきたいと考えています。

4 点目の少子化に伴う加入率減少の対策についてです。現在、竹鼻中学校のサッカー部は 6 名、羽島中学校のサッカー部は 4 名で、合同チームを編成しても 11 人に満たない状況です。このような中、羽島中学校では地域移行の受け皿として羽島モアスポーツクラブ、中島中学校区、桑原学園校区では南部スポーツ村が地域移行に向けて準備を進めていますが、人数が不足する場合はクラブ間の連携を図り、練習や試合を行ったりして、競技を行うことができるように進めていきたいというクラブからの話もあります。

5 点目の指導に関する資格につきましては、今年度、岐阜県教育委員会が主導して、地域移行に関する指導者を対象として、講習会を実施しています。この講習を受けていただくと 3 年間のライセンスを発行するものとなっています。はしまなごみスポーツクラブからは、多くの指導者が講習に参加していただき、ライセンスの取得に向けて努力していただいているところです。

6 点目のクラブ指導者、部活動顧問、保護者の連携に関しては、子どもたちの充実した活動に向けて、必要に応じて行っていただくよう、市からも話をさせていただきながら、協力体制を構築していきたいと思っています。

最後に予算措置に関しては、検討をしながら進めている状況です。

(教育委員会)

指導者の方には、手当は何もなくボランティアでお願いしているということなのではないでしょうか。

(スポーツ推進課)

現在は、会費とスポーツ庁からの委託金を合わせて、指導者の方に謝金を支払っています。

(教育委員会)

義務教育の中で、会費が必要になるという点をどう考えていくかがポイントになると思います。

また、部活動におけるスポーツに親しむという目標と休日のクラブ活動における県大会出場や地区大会優勝などの目標をどう合わせていくかが重要だと思います。

そして、学校教育の一環としての部活動と教員の働き方改革を、今後どうバランスをとって進めていくかということが、今後の課題であると思うので、対応を考えていただきたいと思います。

(教育委員会)

先ほどご意見がありました指導者への謝金は、十分な額とは言い難いものです。見方を変えるとボランティアに近い形なので、これを補填するためには二つしか方法はありません。いわゆる受益者負担で保護者からさらにご負担をいただくか、行政や保護者以外の方からの補填のどちらかしかありません。

スポーツ庁でも色々と検討はされているところですが、何らかの形で行政としても支援していかないと、保護者に負担を求めることになります。

これは、他の地域スポーツクラブも全く同様ですので、課題意識を持って、市としても教育委員会としても考えていかなければならないと思っています。

平日の部活動と休日のスポーツクラブの考え方について、各学校、各スポーツクラブ、教育委員会が認識する必要があると思います。

一例として、例えば、竹鼻中学校では、重点的に指導する日を設けて、勤務時間内に部活動が終わるように努力されています。

他方、休日の場合は、スポーツクラブに委ねられており、長時間ということではないと思いますが、重点的な指導がなされています。

平日と休日ですべてスポーツに親しむことや競技力を高めたいなどの目

標の違い、また、平日と休日で異なるスポーツに取り組む子どももいることから、平日と休日の部活動の在り方について、学校、教育委員会、地域スポーツクラブが考えて、子どもたちのニーズに合うようにしていくことが求められるのではないかと思います。

(市長)

アンケートでのご意見にもありましたウォーミングアップする施設やその他設備の導入に対する要望など、全国の義務教育施設の実情と合っていない中、指導者にだけ力を入れても保護者の方々の満足度は上がらないと思います。

また、義務教育の一環の中でスポーツ文化活動を行うときに、保護者負担をさらに求めるという点については十分な検討が必要だと思います。

先ほどの意見でもありました種目別に拠点を置くということも非常に重要なご意見だと思います。人数が不足をしているような状況の中では、人口傾斜とともに、その施設のあり方によって、休日の種目ごとの練習場所についても今後考えていかなければならないと思っています。

また、指導者の関係については、人格識見や保健指導等がしっかりできることが必須だと思っています。

それでは、次に、今後の方向性について、協議を深めていきたいと思っています。

(教育委員会)

子どもの人数が減少する中、特に団体スポーツは減少していくので、市内でサッカー部が1つ、野球部が1つといったように収束されていくと思います。

大会に地域スポーツクラブも参加できるようになってきたと聞いていますが、その辺の動向はどうでしょうか。

(スポーツ推進課)

市内3つの地域スポーツクラブで協議が行われ、人数の不足により活動が困難な競技については、隣接するクラブや3クラブが共同で活動していくことを検討しています。

また、来年度以降の大会に地域スポーツクラブの出場も可能になると日本中体連が示しています。県内においては、岐阜県中体連の各競技団体が方向性を示すこととされていますので、スムーズに移行ができるように進めていきたいと思っています。

(教育委員会)

地域スポーツクラブの指導者が監督として臨むことは可能でしょうか。

(スポーツ推進課)

可能であると報告を受けています。

(教育委員会)

私たちが経験してきた学校部活動は、子どもの立場から見ると、やらされている形でした。このスポーツクラブを一層生かして、休日に専門的な指導を受けた子どもたち自身が、平日の練習をどうするかを主体的に考えるようになれば良いと感じました。

冒頭の説明で課題にも挙げられていた、専門外の教員による指導に対しても充実した部活動になるのではないかと思います。

(教育委員会)

自分の経験からも周りの上手な子が教えるという形があったので、先ほどの意見のように、子どもたち自身が意識を高め合うことが理想的だと感じています。

(教育委員会)

講習会により 3 年間のライセンスを付与するという制度は大変良いことだと思っています。

部活動にはない新たな競技も出てくる中で、学校の部活動に入らずに地域のクラブ等で活動する子どもは増えるのではないのでしょうか。

また、休日のスポーツクラブは、子どもの技術面での差を認めながら指導をお願いしたいと思います。

学校の部活動に対して、クラブは何という名称になるのでしょうか。

(スポーツ推進課)

サッカー部であれば、はしまなごみ竹鼻中サッカークラブと呼んでいます。

(教育委員会)

全県的に部活動の地域移行については、羽島市のように地域スポ

ーツクラブへの移行や、スポーツ少年団、民間のスポーツクラブへの移管もありますが、保護者が運営する保護者クラブへの移行が現段階では多いようです。

羽島市では、地域スポーツクラブが地域移行を受けていただけるということを大事にしていかなければならないと思っています。

他方、今年度から教育委員会の所管であったスポーツ部門と生涯学習部門を市長部局に移管しましたが、休日は地域で活動する部活動になってほしいという願いがあります。

中体連の夏の大会で、はしまなごみスポーツクラブ OB の高校生が大会の補助を行っていました。

「する」「見る」「支える」というスポーツの関わり方の中で、中学生は「する」が中心ではありますが、「見る」や例の高校生のように「支える」面も大事にしていくことが地域でスポーツをしていくことの意義になると思います。運動部活動の地域移行の大前提として、教員の働き方改革がありました、それだけではなく、地域でスポーツをすることの楽しみや、生涯にわたってスポーツをすることの楽しみを子どもたちが体験することが、スポーツを通じた地域の活性化になるのではないかと思います。ぜひ、3つの地域スポーツクラブを教育委員会としても市としても応援をして、子どもたちのスポーツ活動が充実していくと良いと思います。

(市長)

各委員からも意見がありましたが、子どもの意思や学ぶ意欲を大切に、調和のとれた指導ができる体制に向けて、今後も取り組んでいきたいと思っています。

4 閉会

以上